

255 閉経女性の脂質代謝に対する長期ホルモン補充療法の効果

広島大

真田光博, 児玉一郎, 坂下知久, 大濱紘三

【目的】閉経女性に対するホルモン補充療法(HRT)は脂質代謝を改善し, 心血管系疾患を防止するところから欧米では積極的に実施されているが, わが国での実施率は低い。HRTを普及させるためには日本人女性を対象にした長期成績が必要であり, 今回長期実施による脂質代謝の改善効果を検討した。【方法】同意の下, HRTを5年間施行した閉経女性106例について総コレステロール(T-C), LDL-C, HDL-C, 中性脂肪(TG)の推移を検討した。HRTは子宮摘出例には結合型エストロゲン0.625mg/dayの単独投与(E群), 子宮を有する例にはMPA 2.5mgあるいは5mg/dayの併用投与(E+P群)とした。また3年間HRTを施行した200例(E群111例, E+P群89例)について投与方法および各脂質の治療前値別の検討を行った。【成績】長期治療例では3ヵ月日より改善効果がみられ, 5年目にT-Cは0.3%の減少, LDL-Cは8.5%と有意の減少, HDL-Cは28.9%と有意の増加を示した。TGも36.2%と増加したが, 治療期間中に異常高値を示さなかった。投与方法別ではE群, E+P群でT-Cは1.4%, 2.6%と減少, LDL-Cは6.0%, 11.7%と有意に減少, HDL-Cは23.1%, 20.1%と有意に増加した。TGも27.4%, 36.0%と有意の増加を示したが, 異常高値を示さなかった。また, 高T-C血症例では7.0%, 高LDL-C血症例では16.6%の減少, 低HDL-C血症例では33.7%の増加といずれも正脂血症例に比し, 改善率が大きであった。さらに, 高TG血症例では18.3%と有意な減少を示した。【結論】HRTの脂質改善効果は投与方法に関係なく, 治療後3ヵ月で出現し, 以後5年間維持された。また, HRTは高脂血症例に対して高い効果を発揮することから閉経後高脂血症例の有効な治療法になりうることを示唆された。

256 加齢および閉経の全身および身体各部位の筋肉量に及ぼす影響

鹿児島大

堂地 勉, 山元志奈子, 山崎英樹, 沖 利通, 丸田邦徳, 桑波田理樹, 永田行博

[目的] 加齢や閉経に伴い筋肉量や筋力は低下するが, これらの低下が身体各部位により異なるか否かは不明である。そこで閉経や加齢が全身および身体各部位の筋肉量にどのように影響しているかを検討した。[方法] 右利き有経婦人(n=312, 平均年齢; 40.6±10.8歳)と閉経婦人(n=232, 61.8±7.5歳)を対象とした。年齢, 身長, 体重, 閉経の有無(有経; 1, 閉経; 2として登録)などの背景因子を調査した。DEXAで全身および身体各部位(頭部, 左上肢, 躯幹, 右下肢)の筋肉量を測定した。①これらの因子を有経群と閉経群で比較した。全例(n=544)で全身および身体各部位の筋肉量と背景因子との相関を, ②単回帰, ③重回帰分析で求めた。[成績] ①有経群で躯幹, 右下肢, 全身筋肉量, 身長が有意に高かった*。体重, 頭部, 左上肢筋肉量に両群間で差を認めなかった。②単回帰分析で, 躯幹, 右下肢, 全身筋肉量はいずれも年齢や閉経の有無と負の相関を示した*。頭部と左上肢筋肉量は年齢や閉経の有無とは何ら相関しなかった。③重回帰分析で, 躯幹筋肉量は年齢や身長とは無関係に閉経の有無と負の相関を示した*。全身筋肉量は年齢や身長とは無関係に閉経の有無と負の相関を示す傾向にあった(P<0.1)。下肢筋肉量は年齢と負の相関を示したが**, 閉経の有無とは相関しなかった。左上肢筋肉量は年齢や閉経とは何ら相関しなかった。(*P<0.01, **P<0.001) [結論] 加齢や閉経に伴う筋肉量減少には身体各部位により差を認め, 躯幹>下肢の順に年齢>閉経の影響を受けることが判明した。上肢筋肉量は加齢や閉経の影響を受けない。これらの相違には加齢や閉経に伴う身体各部位の運動量の差が関与している可能性がある。